



心磨・本学・心鍛

鶴ヶ島中学校
 学校だより
 R2.3.26
 No.1 1
 校長：青柳 高

心を磨く 本気で学ぶ 心身を鍛える

今、一人一人の言動が問われる時！

校門や日光街道の桜が満開となり、進級する1・2年生を応援するように咲き誇りました。異例の桜の開花ですが、新型コロナウイルスの影響も異例で、全世界の人々が不安の中で生活を余儀なくされています。全国的に広がりを見せている新型コロナウイルス感染症の影響で、3月2日より臨時休校となり、授業や部活動ができない、行動範囲が制限されるという中で、本日が学年末最後の登校日となりました。久しぶりに皆さんの顔が見られると思うとうれしいです。

この1・2年間の皆さんの成長ぶりは素晴らしいと思います。卒業までの1・2年での成長が楽しみになります。是非、先日卒業していった先輩を思い出し、その更に先を目指して成長して欲しいと思います。

こんな時だからこそ、「いま何が出来るか?」「何をすべきか?」を考えて行動できる人間になって欲しいと思います。新入生を迎え後輩の目標となれる先輩と成長できるよう期待しています。

保護者の皆様、1年間ありがとうございました。こんなに生徒達が成長できたのも保護者の皆様のおかげであると思っています。今後も、鶴ヶ島中学校をよろしくお願いいたします。



卒業生の思い

先日行われた、卒業式での「別れの言葉」の全文です。卒業生の思いの伝わる内容でしたので全文を載せます。



【別れの言葉】

暖かい春の日差しが感じられる季節となりました。

まず初めに、本日は卒業式を開催していただき、誠にありがとうございます。例年とは違い、いつもは私たちを見送ってくれる在校生、保護者の皆様、来賓の皆様がいらっしゃいませんが、こうして今日、無事に卒業式を迎えられたことを非常に嬉しく思います。



3年前の4月8日。満開の桜、晴れわたる青空の下で、私たちはこの鶴ヶ島中学校に入学しました。

慣れない環境の中始まった部活動。時にはイライラしたり、部員同士でぶつかったりすることもありました。良い結果が出せず、涙を流したことも何度もありました。それでも今考えてみると、部活動は私たちが大きく成長させてくれる場所であり、仲間と共に頑張ることを教えてくれる場でもありました。

多くの行事の中でも、体育祭は練習で負けただけでも悔しくて、後輩に当たってしまうほど熱中した行事です。「私たち、今青春しているね」と、みんなが泣きそうになっていたことは、私にとって忘れることのできない思い出です。

そして、合唱祭。クラス内で対立することもたくさんありました。けれど、「今のすごく良かったよね。」と言い合えた日も、同じくらいたくさんありました。

あたり前だった毎日を思い返してみても、あたり前というのは常にあたり前ということではないと私は思います。今から、あのあたり前だった日々を過ごそうと思っても、過ごすことは出来ません。だからこそ、切確琢磨したこの3年間は、私たちの大切な宝物となるはずですよ。

先生方。先生方がいつも私たちを応援して下さいだったことは、私たち全員が分かっていることと思います。どんな時でもいつもそばで応援して下さい、そして私たちの背中を押し続けて下さってありがとうございました。

最後になりますが、私たちは多くの人に支えられ、ここまで成長することが出来ました。感謝の気持ちをもって、これからも私たちに精一杯頑張っていきたいと思います。

卒業生のみならず。かけがえのない日々をありがとう。そして、さようなら。

